

事業者排出量削減計画書（新規・変更）

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市下京区烏丸七条下る東塩小路町721番地					
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	京都タワー株式会社 代表取締役社長 〃					
事業者の主たる業種	ホテル ・ 物販 ・ 貸室 ・ 飲食					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	20年 4月 ～ 23年 3月					
基本方針	平成19年度を基準に、平成23年度の温室効果ガスを6%以上削減する。					
推進体制	総務部長を環境管理責任者とする地球温暖化対策本部において、平成19年度を基準年とする新たな実行計画の進捗管理を実施する。					
	環境マネジメントシステム名称	KESステップ1				
	適用範囲	京都タワーグループ				
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	取得年月日	平成20年度				
	年度	設備、対象、工程等	計画内容			
	20年度	客室・宴会部門	改装時等に白熱球から電球型蛍光灯に更新を図り、またLED照明器具の導入を検討する。			
	20、21年度	受変電設備	受変電設備更新工事で特高トランスを高効率型に更新する。またコンデンサを低損失型に更新する。			
温室効果ガスの排出量等	20、22年度	冷熱源設備	冷水発生器、ボイラの更新工事を計画し、高効率機器への変換を図る。			
	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）		
		A 事業所等排出区分	5,204 t	4,894 t	-6.0 %	
		B 輸送車両排出区分	t	t	%	
		C その他排出区分	t	t	%	
排出合計	*1 5,204 t	*2 4,894 t	-6.0 %			
目標設定の考え方	設備更新の予定があるため、相当量のco2の減量が見込める。また現設置の機器は使用方法、効率化を図り省エネルギーを進める。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	
	タワービル	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.188	0.177	-6.0 %	
	第2タワーホテル	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.120	0.112	-7.0 %	
	アネックス	二酸化炭素換算 （延床面積）	0.139	0.130	-6.0 %	
原単位の指標及び計画数値設定の考え方	3施設ともに、延床面積を原単位に、6%以上の改善を目指す。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				
		取組量等	（二酸化炭素換算）			
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）		t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）		t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）		t
	グリーン電力の購入	（熱供給量）	GJ	（削減量）		t
削減量等合計	（購入量）	kwh	（削減量）	t		
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）			
	*1 5,204 t	(*2)-(*3) 4894 t	-6 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 京都府が呼び掛けるライトダウンキャンペーンに京都のシンボルとして参加する。 社内の環境保全活動意識を向上させるために講習会等の開催を実施する。 					
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 全社で1990年度基準に温室効果ガス排出量を2010年度には20%以上の削減を目標とする。 地域における環境保全活動を進めるため、地域の清掃活動に参加する。 					

注1 該当する欄には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

注3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

注5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。